弓道いばらき

平成26年６月 第36号
発行所　取手市駒場1-22-31
茨城県弓道連盟
理事長　大峰　芳樹
電　話　(0297-72-3245)
http://ibakyuren.com

会長就任のご挨拶

茨城県弓道連盟　会長　久保田　清

昨年、東京オリンピック開催が決定されました。悲願の東京開催、日本全体を活気づける大イベントとなります。東京オリンピックの前年の平成31年には茨城国体が予定されています。オリンピックの前年の年となりますので、全世界からも注目される大会となります。

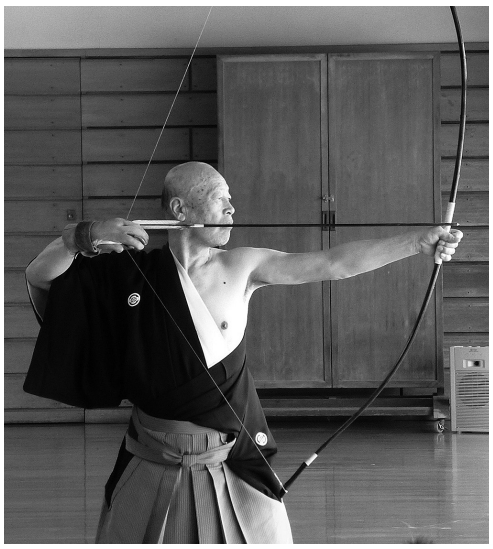
そのような中で、つい先日、3月15日の県弓連の代議員会で、初めて会長に任命されました。まことに微力ではありますが、会員の皆様方のご協力をいただき、任を全うしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

さて、国際弓道連盟が平成18年に発足し、今年で8年になります。そして今年7月には第二回国際弓道大会がフランスのパリで開催される予定です。先月、選考会が中央道場で実施され、茨城県から山口純選手が見事、日本代表になりました。茨城県から世界大会に出場選手を出せることはこの上ない名誉なことです。ここで簡単に説明しますと、山口選手は藤代高校弓道部で弓道を始め、大学進学後も国体選手に選ばれるなど積極的に修練を続けてきました。藤代武道館でも仲間たちと日々練習し、いろいろと試しては自分の技を磨いてきたと聞いております。フランス大会でのご活躍を期待しております。

弓道もいよいよ世界大会レベルが要求されるようになりました。弓道の大事なところは、いかに緊張する大きな舞台で、きちんと弓道八節に則って的中できるかです。普段の慣れた道場で的中するのは簡単です。たくさんの人が期待している中、的中させるのがいかに困難であるか。そのためにも日々の練習でいかに自分に厳しく、単なる的中ではなく、基本に則った射をだせるようにしないといけません。

そのためにも、競技力の向上、試合の中で、いかにいつもの練習通りの射が出せるかが課題となります。たまに審査だけ積極的に受けにいっている方が見受けられますが、本来、いつもの練習を本番で試す練習が試合だと思います。試合にも出場せず、審査にだけというのはいかがでしょうか。また、試合だけ参加して的中のみにこだわってしまうのもどうかと思います。最終的には弓道を通して、人格を形成していくのが目標です。弓道を手段として人の道を教えていく。まず射技を実践して見せられるよう日々修練する必要があります。

また、現在、茨城県だけでなく、日本全国で問題としてとらえなくてはならないのが弓道人口の拡大です。中学・高校生の部活動、あるいは各支部で実践されています弓道教室など地道な活動をそれぞれ進められていると思います。日々練習されている指導者の各先生方には感謝申し上げます。ですが、さらに一歩進める時期にさしかかったのではないでしょうか。今、弓道人口をさらに確保するためにも中学・高校の卒業生が弓道を継続できる環境作りが大切ではないでしょうか。各高校弓道部には20名~30名の部員がいて、毎年各校で十名前後が卒業していきます。県内でも約80校に弓道部があります。ところが、ほとんどの学生がせっかくはじめた弓道をやめてしまいます。大学に進学して大学弓道を続けられ、一般で弓をひかれる方はまだまだ多いとはいえません。この卒業後、弓道をやっていない経験者が県内にかなりいるはずです。この若者たち、あるいは社会人の経験者を発掘し、活動できる環境を整えて行く必要があるのではないでしょうか。先にも述べましたが、東京オリンピックの前年、平成31年に茨城国体が開催されます。スポーツに関心が集まっているこの時期に会員の皆さんと知恵を出し、あらた



「平成26年度に向けて」

理事長　大峰　芳樹

この度、先の代議員会議により図らずも理事長に推挙され、就任いたしました。前理事長の北島先生のお人柄についてはここで述べるまでもなく温厚で会員の皆様方において信任篤いものであります。そして理事長として県連を支えて下さったことに、心より敬意を表すとともにご慰労と感謝申し上げます。私自身は、元より浅学非才の身ではございますが精いっぱい努める所存でございます。

ともあれ、何ができるかは大変心細い限りですが県連の目標を達成するため事務を執行してまいりたいと思います。

規約には、本連盟の目的として、「弓道の普及、振興をはかり、体力の向上・情操・品位の涵養に資し、健康にして明朗なる県民の育成に寄与すると共に、会員相互の親睦を図ることをもって目的とする。」とあり、

1　弓道の普及振興策の樹立推進
2　弓道大会の開催
3　級・段位の審査
4　講習会・研修会等の開催
5　各種協議会の開催
6　各種団体相互の連絡協調
7　その他、本連盟の目的達成に必要な事業

を行うと規約になっております。

これらの事業を円滑に展開できるように専門部間の協調体制を図り、各専門部に業務分担をお願いして連盟としての力を発揮してまいりたいと考えます。また、全弓連や他の地連そして関係諸団体との連絡調整を的確に事務処理を執行できるよう努力していきたいと考えております。この原稿を推敲している時も、諸団体との事務処理が続き慣れないなか、奮闘しているところですが、前理事長の適切なアドバイスをいただきながら執行している状況です。このように、この度の代議員会議により多様な体制が構築できればと考えております。その際、重要となるのが、各支部で活動している弓道場です。それぞれ中学・高校と地域の道場が密接に連携できればと思います。いろいろな工夫をよろしくお願いいたします。

あらためて、前年度の活動を振り返りますと県外大会の成績は振るわず、全弓連の地連の順位も過去には最高で全国3位に入っていましたが、昨年度は最下位となりました。昨年度の国体ブロック予選では予選を通過できず、本国体に出場することができませんでした。一方、全国教職員大会では個人の男子の部で第四位に後藤裕一（亀城）女子の部では柴寿子（亀城）が準優勝、大金喜代子（水戸櫻川）が8位入賞されました。それぞれ入賞された方、おめでとうございます。ただし、先にも述べましたが、地連の成績を向上させるためにも競技力をさらに向上させなければなりません。

また、県外審査に目を向けてみますと、錬士5名、六段5名の合格でした。昇格された方、誠におめでとうございます。さらに技と心の向上を目指してください。県内のさらなるレベルアップのためにも称号者の合格者アップは早急の課題です。教士以上の合格率の低下が目立ちます。ここぞというときに二本詰められる精神力の強化が求められます。

ここまで見てみますと、いかに本番に精神面が不足しているか、二本詰めないといけないとプレッシャーがかかったとき、練習通りやりきれていないかが浮き彫りになります。日々の練習で的中すれば良いのではなく、基本に則って審査、試合とも同じ射でのぞむことが必要ではないでしょうか。

昨年度は、夏にヨーロッパへ弓道指導に行きました。射技の指導をした際、射法八節一つ一つの意味、なぜこうするのか理解されていないと思う場面が何回かありました。海外でも弓道の課題は同じです。指導者に射技を指導されても、その場ではその通りにしていますが、各道場にもどって指導された事を確実に身につけられていません。各道場で、指導された物をいつでも出せるように努力をコツコツ進めることです。大事な場面で、自分に打ち勝つ精神力と打ち勝つための努力を続けましょう。

以上のことから、努力目標は昨年の柴田先生の目標と同様ですが、次のように考えております。

1．競技会、講習会に積極的に参加し、より競技力の向上をはかる。
2．競技・審査とも日頃から基本通り、射法八節に則った射を目指す。
3．弓道人口の底辺拡大に努め、競技層の若返りをはかる。
4．射法射技の理解を深め、体配の向上を目指す。

さらに、昨年度文書を出して注意を促しましたが、使用してはいけない羽などの取得は禁止されています。今年度も引き続き徹底していきます。周知徹底してください。

あらためまして、弓道を楽しみましょう。皆様方の益々のご発展・ご活躍を祈念いたします。

総務企画委員長就任に当たって

総務企画委員長　張替　謙一

このたびの役員改選に当たり、前委員長木村喜久雄先生から総務企画委員長を引き継ぎ、任に当たることになりました。微力ですが、委員長として４人の委員と共に会長の諮問に答えられるように努力して参りたいと思います。

総務企画委員会の役割は、茨城県弓道連盟総務企画委員会規約第２条に「委員会は、弓道指導方針の策定、審査会の合理的運行の検討、国体選手強化計画の策定、連盟活性化の施策など、会長が会務に要する重要案件を付託し、長・中期的にまとめて会長に報告するものとする。」とあるとおり、会長の諮問機関としての性格を有するものです。

会長の会務は、県連盟を運営していくための多岐の問題に渡ります。我々委員会委員の役割は、会長の会務に関するあらゆる面からの重要な案件の諮問に答えうる試案を作成し報告するということになります。

今年度、会長は重点目標として次の３点について述べられました。

１つに競技力の向上。

２つに中央審査合格者人数の増加。

３つに弓道人口の増加。

１つに競技力の向上についてですが、残念ながら昨年度の全弓連主催の大会等において地連得点０点、順位は最下位となりました。そのことを受けても、今年度から競技力の向上のため、強化計画の見直しと強化指定選手の選抜についても考えていかなければならないと考えます。

さらにまた、２０１９年開催の茨城国体に向けての国体選手選考のあり方と強化も必要であり、また、関東選抜、全日本選手権、全日本遠的選手権等への派遣選手ついても一朝一夕には育たず、各大会の選手選抜のあり方と共に、中・長期的に選手の育成を図ることの計画も急務となっています。

２つに審査合格者人数の増加。

近年中央審査の合格者が激減しています。

たとえば、称号者は１００名を優に越えるにも関わらず、講習会等指導者としての存在の教士の現在活動しているのは40代教士１名、50代１名、その他は総て60代以上というのが現状となっています。さらに昨年度は教士合格者が０名という現状です。

県主催の講習会の充実と共に、支部、地区主催の講習会も計画して射技体配の向上を図ることも重要な課題となっています。

３つに弓道人口の増加ですが、弓道人口の増加をはかるには、まず各支部活動の活性化（弓道教室等の充実）と共に、学校弓道との連携も必要です。

一部、学校弓道卒業者と支部とのつながりある関係を築き成功している例もありますが、学校弓道卒業者が県連盟の支部に定着していないのも現状ですので、連盟として受け入れの体制を考えることも必要な課題です。

また、学校現場での指導者の育成も必須の問題となっています。

今年度の委員会の目標として以上の３点を中心に、また他の種々の問題点についても、会員の方々のご意見を集約し、討議検討して報告していきたいと考えています。

くの役員・理事そして専門部の部長が変わり、新しい職責を全うしようと取り組まれているところから、相互間の連絡協調体制を確立していかなければならないと感じているところでございます。県連の行事予定表を見ても県連行事、全弓連・関東地域弓道連盟行事、その他県内行事、中体連・高体連行事など大変多くの行事を主催し或いは会員が参加している訳ですが相互の連絡調整が是非とも大切になっています。しかしながら、これらを運営し企画するにも礎は会員一人ひとりの努力とその絶対数の増加を図らなければ茨城県弓道連盟の発展が望めません。

県連としては、弓道人口を増やしていくことが大きな課題です。そして今、学校教育において武道の必修化の影響もあり、少子化の中で中高生の審査受審者が増えている現状があります。その中で是非とも、卒業後も進学先や各支部に籍を置いて弓道を続けてもらいたいと思います。

この多くの学生を生涯を通じて弓の仲間としていくためにも会員一人ひとりのご尽力に期待するところでございます。

最後に、役員の皆さまは元より各支部の方々にご指導を賜りますようお願い申し上げまして、事務局としてのあいさつとさせていただきます。

茨城国体に向けて

国体準備委員長　森　昭夫

㈠ はじめに

昨年度から発足した、茨城国体準備委員会の委員長を拝命しています、玉里酔心館支部の森です。

本年度も引き続き委員長として活動してまいりますのでよろしくお願いいたします。

㈡ 国体のあゆみ

皆様ご承知のことと思いますが、国体は昭和21年、京都府を中心とした京阪神地方で開始し、都道府県持ち回りで毎年開催され、都道府県対抗で競技を実施しています。東（北海道・東北・関東）、中（北信越・東海・近畿）、西（中国・四国・九州）の3地区の輪番制で開催します。昭和63年第43の京都大会から2巡目に入りました。

国体はスポーツ基本法に基づき推進される国内最大の国民スポーツの祭典です。

「本大会」と「冬季大会」に分かれていますが、本県は、「本大会」を実施します。

男女総合成績で1位になりますと天皇杯が、女子総合成績で一位になれば皇后杯が賜れます。

茨城県は過去に昭和四十九年の第29回茨城国体で天皇杯、皇后杯に輝いています。

㈢ 茨城国体について

本県で第74回として開催されることは今年の9月に内定されます。決定は開催3年前の平成28年9月となります。そして東京オリンピックが開催される前年の平成31年が開催本番となります。正式競技40競技で、その中に弓道が入ります。

参加予定人数は約23，000人（選手・監督・役員）になります。

今年二月に大会愛称とスローガンが決まりました。

大会愛称は、

【いきいき茨城ゆめ国体】

（趣旨）選手やボランティアをはじめ、国体に参加するすべての人々に、活気にあふれ、いきいきと活躍できる夢のあるスポーツの祭典のすばらしさを感じていただきたい、という想いを込めています。

スローガンは、

【翔べ羽ばたけそして未来へ】

（趣旨）国体に様々な形で参加することによって飛躍し、そして未来に向けて大きく羽ばたいていける大会であるように、という想いを込めています。

「大会愛称・スローガンは茨城県のホームページより」

㈣ 弓道競技について

弓道開催地は水戸市堀原運動公園武道館弓道場・同公園自由広場に於いて全種目（近的・遠的）を実施することで決定しました。開催県である本県は成年男女、少年男女の全種別に出場できます。

㈤ 中央競技団体正規視察について

本年1月28日に公益財団法人全日本弓道連盟から柴田執行理事と宇佐美理事のお2人による正規視察が県武道館で行われました。

説明・立会者として茨城県準備委員会事務局から寺島競技・式典室長および水戸市教育委員会から五上スポーツ課長、笹島課長補佐、谷中係長、藤田主査、野口主管、猿谷様が、また、茨弓連からは白石副会長、北島理事長、森が出席しました。（役職は当時）

国体開催にあたり不具合点などがないか視察していただきました。

その結果、近的・遠的会場共に危険防止上、西日対策が必要であること、遠的射場が現状では狭く選手の入退場に問題があること、また射場床も傷んでいることから、改修の必要性を指摘されました。

観覧席については、国体の場合、選手は勿論のこと、一般市民の方にも楽しんでいただくために、自由に観覧できるようにしなければならないことから、遠近競技共に雨天時も問題ないように配慮します。特に遠的会場は植え込みの背が高くなっていることから対策が必要となりますが、堀原運動公園は、国有地であることから手続きが面倒なようです。

自由広場には遠近両競技の仮設練習会場も設置することなどで、了承されました。

㈥ 終わりに

あと5年後に開催される茨城国体に向けて、会場の整備を粛々と進めなければなりませんが、国体前年には国体リハーサル大会として全日本勤労者弓道選手権大会が開催されますので、あまり余裕はありません。

最後になりますが、皆様にお願いがあります。国体リハーサル大会と国体本番で、役員として多数の方に参加協力をお願いすることになります。その時には快く積極的にご協力の程を、今からお願いいたしまして、国体準備委員長の挨拶といたします。

【写真は昨年の東京国体遠的記録ブース内の様子です。9月30日小金井市にて】

専門部だより

指導部

部長　川瀬　政人

会員の皆様には益々ご健勝で日々の稽古にご精進のことと拝察致します。

本年度の役員改選に伴い、指導部長の大役を仰せつかりました神栖支部の川瀬です。副部長には鹿嶋支部の小堀富男が努めます。微力ではありますが充実した講習会となるよう部員一同努力する所存です。よろしくご協力の程お願い申し上げます。

更に、会員の皆様には講習会への積極的な参加をお願い致します。各支部で日々の修錬は広さの関係上、十分な脚さばき、余裕もっての体配練習は難しい道場が多いかと思われます。

高段位になればなるほど射技、体配の厳しさが求められます。

しっかりした体配は射品・射格に表れ、隙のない体配に基づいた射は見ている人に感動を与えます。

前会長の柴田範士が都度、次のように話しておられました。

一、競技会・講習会の積極的参加を
二、射法射技・体配の向上に努める

講習会への参加することは、体配・射技の不十分な点を教わり、見取り稽古ではその不十分な部分を修正する場であり、また講習会に参加する事によって、自分と同段位、同レベルの弓友会員と五人揃っての体配・間合い・射技等を講師の先生方より詳しく、正しく指導して戴くよい機会です。

競技大会等ではとかく軽視されがちな体配を重点項目におき、射技のみを高め、ただ的中率を上げることだけを求めず、中てる射でなく、中る射を体配と伴って習得し、更に高段位、称号をめざすのが弓道の最高目標への近道ではないでしょうか。

弓道上達の三要素「やる気、素直さ、創意工夫」です。

講習会で指導されたことを各支部に持ち帰り目標に向かって自己研鑽願えれば幸いです。

本年度の講習会は昨年同様、三・四段講習会、五段講習会、錬士講習会、教士講習会、支部の指導者講習会、講師審査員講習会、高校審判講習会等を計画してあります。

指導部としては少しでも各講習会、受講生皆各位の昇段昇格のお手伝いをさせて戴き、充実した講習会になるよう努力したいと思っております。

会員皆様方の大勢の参加とご協力をお願い致します。

審査部

部長　和泉　武

この度審査部長と云う大役を仰せつかりました和泉です。経験・知識共に不足であることを自覚している私にとり、双肩にかかる重圧は想像以上で有る事を今実感しているところです。審査に関わる諸先生方、審査部員の皆さまのご指導とご協力をお願いし、自らは真剣に学び、労力を惜しむことなく誠心誠意尽くす事を覚悟しているところです。

審査部では、茨弓連開催の中高生・一般審査を主とした審査申込書の受付から審査会の運営、そして最終の認許証発送に至る一連の業務を行っております。また、受審料・登録料の入金確認および全弓連や審査主催地連への審査申込書の送付と振込、審査会運営に掛かる諸費用の管理等、審査に関わる広範多岐・長期に渡る業務を担っており、円滑かつ正確な業務遂行を求められております。

そのため、審査申請をする皆様を始め、審査申込を取りまとめいただく支部長の皆様および中学校・高校弓道部顧問の先生方、審査に携わる審査員の先生方、そして実質的に審査会運営・諸手続きを担っていただきます審査部員の皆さまに改めましてご協力を賜りますよう切にお願を申しあげます。

さて弓道を志す者にとり、日頃の稽古の成果を発表する舞台は、各種大会・競技会の外に審査会がありますす。取り分け審査に対する思いは格別のものがあると自らも認識しているところであります。日常の稽古を通し射法射技、そして体配の両輪の向上は射品射格に繋がり、やがては人間性の完成へと導かれることは教本にも明記されております。審査はその過程とその水準を計る目安であり、稽古の在り方の見直しと、新たな目標を見出し稽古の糧になるものと思います。しかし、審査は稽古で培った全ての実力を発揮する事の難しさも存在しているとも思います。いつもと異なった道場、静寂、そして審査員席に心が行くと途端に高まる緊張感を覚え、そして普段の射とは異なった射になる経験は私自身も数多く経験しているところであります。受審者の真剣さと緊張感の中の行射は審査員の先生にも伝わり、受審者の一挙手一投足を長時間に渡り真剣に緊張感をもって審査にあたっている様は容易に推察出来ると思います。

審査部としましては、受審者にとりましても審査員にとりましても気遣い怠りなく審査に没頭出来るようにしたいと願っております円滑で正確な運営、そして控え場所、学科試験会場、射場等など審査し易い環境作りを考え進めたいと思っております。

審査結果は時の運と云う一面をもっていると思います。不幸に失敗したとしても失敗から学びとる事はあると思います。失敗から学び取った事をその後の稽古に生かす。幸い合格したら、新たな目標に向かって稽古に励み共に再度審

査会へ挑戦して戴きたい思いであります。縁の下の力でそんな環境作りのお手伝いが出来たなら審査部としても喜ばしい事だと思っております。

今年度の県内の審査会の予定は中高生審査は4回8会場、一般審査は4回4会場で行う予定です。全ての受審者のご健闘を心よりお祈り申し上げますと同時に、重ねてご協力をお願い申し上げます。

審査部からご連絡

1　受審料・登録料が変更になります。（消費税率引き上げに伴う処置です。）

2　県内の一般審査の申込み期限は審査日の30日前迄と変更になります。

3　中央審査、連合審査の申込書の送付先は審査部事務局の新井重夫先生宛となります。

尚これらの変更に関する詳細は平成26年3月、既発行の審査申込の留意事項をご覧下さい。

競技部

部長　小松　正幸

この度、前大貫競技部長からバトンタッチしました霞ヶ浦支部の小松です、副部長には土浦支部の齊藤孝司、牛久支部の福嶋勝之が新たに入り、玉里酔心館支部の平原勝己は引き続き担当致します。どうぞ宜しくお願い致します。前競技部長そして歴代競技部長の完璧な競技の運営を振り返ると、私に務まるのか心細い限りです。

不慣れな小生ですが、幸い先輩方に作り上げていただいた各大会毎の詳細な競技運営要領書がありますので、このマニュアルに従って進めていきたいと考えております。各大会運営にあたっては、本年も茨弓連全体の競技運営能力向上を図るため担当地区委員長を運営責任者とし、各地区から選出された役員の方々のご協力により運営を致します。担当地区の皆様にはご苦労をおかけしますが、競技部も力を合わせて任務を全うしたいと思いますので重ねて宜しくお願い致します。

さて、一生懸命に稽古を積んで臨む晴れ舞台である県大会に、選手の皆さんが少しでもよりよい環境、よりよい雰囲気で試合に臨めるように努めるのも競技部の大事な任務の一つであると考えており、それにこたえられるよう微力ではありますが努力する所存です。そして前年を上回る多くの選手が参加されますように心から願っております。前会長の柴田先生が繰り返し訴えておられた一つに「競技会への積極的参加」があります。久保田新会長になってもこの方針は変わらないと思います、どうぞ皆様お誘い合わせの上積極的にご参加ください。

本年も例年同様、大会の当日は施設部のご協力により遠的場を開放致します、遠的の練習は普段やりたくともできないのが現状かと思います、その為でしょうか例年遠的大会の参加者が少ないように思います。この機会にどうぞ気軽に「安全には特に注意を払っていただき」待ち時間を利用して遠的の練習を行ってください。

最後に、選手の皆さんが気持ち良く行射でき、実力が十分発揮できるように、控室はできるだけ静粛に、又、退場口では選手の進路の妨げにならないよう特に注意をお願い致します。

以上競技部よりご挨拶といたします。

強化部

平成26年度 長崎国体に向けて

部長　竹之内正宏

平成25年度の関東ブロックは、8月に神奈川県横浜市で開催され、成年男子は2位でブロック通過しました。しかし、少年男女、成年女子は、あと1本、あと3点が勝敗を分け、予選通過することができませんでした。

これまでの成年男子は、午前中の遠的での先行し、そのまま午後の近的を逃げ切る形で予選通過をしてきました。しかし、平成25年度の男子は、近的の強化を重点課題として取り組み、柴田先生にご指導頂き、選手各人が自分の道場で修練を積重ねた結果、近的24射22中で1位となり、遠的5位からの予選2位通過を果たしました。

成年女子は、遠的で3位通過（2位と3点差）したものの、近的で7位となり、予選5位で通過できませんでした。ブロック通過まで、遠的であと3点という非常に僅差での敗退でした。

なお、国体本選は、9月末に東京で開催されましたが、残念ながら選手3人の調子が合わずに、遠的・近的共に予選敗退となりました。

ここで、柴田先生をはじめ、ご指導、ご協力を頂きました県内の諸先生方にこの場を借りて、お礼を申し上げます。

次に、国体本選がどのようなレベルの試合かをご紹介させて頂きます。

遠的・近的共に一人予選8射で行われます。遠的は、中心から10点、9点、7点、5点、3点となっている色的にて実施されますが、成年男子の予選通過には、3人（24射）で、約150点が必要となります。的中的には、24射22中程度が必要です。

成年女子は、約120点が必要です。

また、近的は、成年男子は21～22中，成年女子は18～20中が予選

通過に必要です。
　成年男女の関東ブロックトップ通過には、国体本選の予選通過と同程度の点数・的中が必要な状況であり、関東ブロックのトップ通過を目指すことが、国体本選での入賞につながります。
　最後に、平成26年度長崎国体に向けて、成年男女ともに、関東ブロックトップ通過を目指して、強化練習に励みたいと考えます。
　今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願いします。

施設部

部長　園部　俊雄

　昨年度の各種大会等では各地区当番の皆様のご協力を頂き、厚く感謝申し上げます。お陰様で各種大会等が無事に終了することが出来ました。さて２０１９年の茨城国体まであと5年になります。　国体開催に向けて、武道館・弓道場等の施設について、トイレの数とスペースを今後、毎年更改工事を実施予定です。
　また、近的射場の観客席及び日除け等の改修工事、遠的射場の増改築工事が予定されています。工事期間中は不便になるかもしれませんが、ご協力をお願いいたします。平成26年度は大きな県外主催大会等はなく、例年通りの行事予定となっております。今年度も引き続き施設部一同は各地区当番の皆様のご協力を頂き、各種大会等に万全を期していきますので宜しくお願いします。

地区だより

日立地区

日製日立支部　伊東　喬

ァァ　時流と自然には勝てず

　長年親しまれ修練に通った2道場（日製会瀬弓道場と五来道場）が、昨年末残念ながら取り壊し閉鎖となってしまいました。
　会瀬道場は昭和56年に武道館併設弓道場として新築され、今日まで22年間県北地区での百名を超える大会に大いに貢献した道場。昨年6月、9月末で使用禁止の報に驚き、請願書による「存続のお願い」署名を各支部の多数の弓友にお願いし、そのかいあって年内使用可となり、12月14日の納射会で最後となりました。
　請願書に署名下さった多くの弓友に改めてお礼を申し上げます。
　五来道場については日立支部からの投稿文を残します。
「ありがとう　五来弓道場」
　昭和44年に故錬士六段五来清先生のご厚意により屋敷内に弓道場を開設し、以後45年間修練場として会員一同、切磋琢磨、弓道精神と射技の習熟に努めてきたが、平成23年の津波により崩壊寸前の被害を受けた。しかし有志並びに諸団体の援助と全会員の奉仕活動により復旧することが出来た。安心していたのも束の間、昨年10月の台風26号による暴風雨の被害で、射場床も傾き、アズチ砂も流失、屋根全体の損傷大きく再び使用不能となってしまった。
　度重なる自然災害により、隣接する家主の母屋解体工事と相まって、弓道場も12月1日に解体閉鎖されることになってしまったのです。
　今まで多数の大先輩の弓道人を輩出した歴史ある道場で学んだことを感謝し、全会員による射会「ありがとう五来弓道場」を12月8日に開催し、今後の日立市支部の結束と発展を誓ったのである。
　現在は、市営の久慈弓道場で、会員42名日々修練に励んでいる。

（日立市支部　五来　勉）

五来道場お別れ会＆横山さん追悼射会
平成25年12月８日

　もう一つ神事を紹介します。
　日立市大久保町鹿島神社（臼井悦郎宮司）では、秋季例大祭が毎年10月29日に披露され、その中に流鏑馬神事があります。
　この神事は約４００年有余年前から継承されており、平成17年頃までは神社前道路で披露されていたが、交通量の増加に伴い、現在は神社参道での馬上徒歩流鏑馬として行っている（射手鶴岡良造さん）。
　今回から神社側の意向で、弓道演武を行うことになり、日製日立支部員（３人）による「一つ的射礼」を実演披露した。地域伝統としての流鏑馬の神意と弓道の奥深さが伝えられ、そして見学に来ていただければとのこと。
　毎年この神事は続くので、ご声援下さるよう願っています。

水戸地区

内原支部　小形　佳昭

　水戸地区は16支部、約２９０名の会員から構成されています。平成25年度も恒例のひたちなか市「かつお釣り大会」、笠間市の「菊

祭り大会」、水戸市の「観梅弓道大会」が開催されています。

3月に開催された観梅大会では柴田猛範士の矢渡しの後、平成25年度を含め過去3回全日本男子弓道選手権大会で最高得点賞を獲得した土佐正明教士八段をお招きし、橋本真也教士八段との一つ的射礼の演武を披露して頂きました。約500人を超える県内外からの参加者を魅了しました。

水戸地域の弓道の愛好家にとっては弓道場を持つことがかねてからの念願となっています。その建設に向けた活動について簡単に紹介します。

平成24年1月水戸市内6支部から構成される水戸市弓道連盟の柴田会長を中心に武道8団体の会長らが発起人となり、内原支部所属の安蔵栄氏（水戸市議会議員）を介し、多数の市議会議員の賛同を得て、議長に市立武道館建設の請願書が提出され、同年3月本会議で採択されました。更に、25年8月には水戸市弓道連盟として弓道場の陳情書を議長に提出し、同年9月本会議で趣旨採択されました。今後水戸市当局の弓道場建設に向けた具体的な動きが注目されています。

水戸地区では地区担当理事の選定方法について取り決めがありませんでした。その為、平成26年3月15日の茨城県弓道連盟の代議員会終了後、前理事の茨城高専支部長の根本栄治氏の声かけにより、当日不在の茨城県庁支部、和弓会支部を除く各支部の代議員が集まり、地区理事の選び方について話し合いを行いました。その結果、地区理事は茨城県弓道連盟の名簿に記載された支部の順に沿って2年毎に担当する事になりました。したがって、26年度から2年間、内原支部の私小形が務める事になりました。更にその後は笠間支部が担当することになります。以上宜しくお願い致します。

石岡地区

美野里支部　丸　三郎

石岡地区には、石岡市、航空自衛隊百里、玉里酔心館、桐弓会、美野里、八郷、小川の7支部ですが、残念ながら小川支部が今年度は休部となりました。

活発な活動下にある支部もありますが、部員の減少や、多くの部員が現役世代で稽古時間の確保がままならず活動が鈍くなっている支部もあるという現状です。以下は各支部の現況報告です。

石岡市支部は、部員が増え30名となりました。昨年度と同様に月例射会、芹澤杯50射会、花見射会、祝賀射会等の各種射会の実施、弓道教室の開催、市の親善武道大会への参画等と活動を続けています。トピックスとしては、芹澤先生の7月の御命日にご遺族をお招きしての追悼射会の実施、フランスからの留学生6名に対しての弓道体験教室の開催等があげられます。今後とも活発な活動を続けたいと考えております。

航空自衛隊百里支部は、現在部員は10名です。弓道場は基地内にありますが、部員達で3年がかりで造った手造りの道場です。

日々の練習は、道場が基地内の中心部に位置するという恵まれた環境下にあるため、毎日の昼休みと終業後に三々五々集まって練習に励んでいます。昨年12月に明治神宮中央道場で開催された第42回全自衛隊弓道大会においては、団体優勝と個人戦2位（岡田四段）入賞という好成績を残しました。

しかしながら支部の悩みとしては、指導者層の薄さです。世代交代により高段者がいなくなり、より一歩上への教導が出来ていないということですが、講習会等の機会を生かし、質の向上に努めていきたいとか考えています。

玉里酔心館支部は、部員が大幅に増え17名になりました。若手は、百矢場を目指し、梅祭り、桜祭り大会などに積極的に参加し好成績を残しています。国体を目指し県連の強化練習にも3名が参加していますが、是非、当支部から選手を出したいと願っています。

桐弓会支部は、部員11名ですが、部員それぞれが忙しいため、なかなか同じ日に集まることができないという悩みをかかえておりますが、それぞれが自由に人生の趣味として弓道ができる環境下にあり、練習のために弓道場を貸し出してくださる学校に感謝しています。部員全員が、基本に忠実であり、恰好良く中る弓を目指しています。

美野里支部は、部員10名ですが、悩み多き支部活動となっております。練習に精勤できる部員と時間がとれずなかなか練習に参加できない部員とに二極化していること、若手が少ないこと等の悩みを抱えています。5年後を考える若手部員の募集は喫緊の課題です。

八郷支部は、部員が前年度より1名増え3名となりましたが、部員が少ないため、支部主催の弓道大会、弓道教室の開催等はできませんでした。徐々にても部員数を増やして活発な活動ができるようにと思っています。

鹿行地区

麻生支部　久保　喜雄

鹿行地区では、10支部131名の会員が登録されています。今回は、鹿行地区の活動を紹介します。

潮来市では、毎年、あやめの咲く6月に潮来市弓友会による、あやめ祭り弓道大会が、県内外200名を超える参加者のもと行われます。会場は、昭和49年茨城国体の弓道会場となった潮来高校弓道場で、中野慶吉先生の射影が掲額され、競技役員・選手の氏名が掲示されており、当時を懐かしむ人も多く見られます。余興の花的賞では、三本立のあやめの鉢植えが贈られ、風情ひとしおの感が

あります。
　練習は、故人所有の至徹館弓道場を借り上げ、週２回夜間を主として行います。近年、高校で弓道を経験した若手が加わり、各大会で活躍が見られるのは頼もしい限りです。
　行方市には、麻生、玉造の二支部があり、行方市体育協会弓道部として、共に活動しています。市内には、玉造公民館弓道場、麻生運動場弓道場と、個人所有の弓道場が２つあり、会員数に比して道場の数が多くあります。会員の平均年齢が60歳以上となり昇段昇格も停滞気味ですが、無理なく楽しく永く続けられる弓道を目指して日々精進しています。

　春の麻生杯弓道大会、秋のあきんど祭り弓道大会は、いずれも参加者２００名を超え、千葉県からの参加者も増えています。それぞれの季節にあわせ、メロン、トマト、レンコン、チンゲンサイ、サツマイモ、コシヒカリなど地域の特産物を中心に賞品を揃えています。新米30kgを得た優勝者から「これで半年間、米を買わずにすむ。」との声が聞かれたこともありました。
　地方大会ですので気軽に多数ご参加いただけますよう、会員一同、お待ちしております。

土 浦 地 区

新治支部　助川　忠雄

　土浦地区には、７つの支部があります。各支部長から近況報告を頂きましたので、紹介いたします。
　霞ヶ浦支部です。平成25年度現在、弓道部の会員数は34名（女性11名、男性23名）、内茨弓連登録者20名。下は中学生、上は80歳代の熟年まで、老若男女、楽しく稽古に、そして射会に活動しています。主な大会は、平三坊・市長杯・武道大会です。特に長い伝統を誇る、平三坊射会は、野外での大会なので、毎年楽しみにしている方も多いです。昨年はホームページも立ち上げ、広報活動と弓道の普及に努めています。
　次に筑波支部です。練習場所は、筑波大学弓道場です。会員数は約40名です。週末の午後、練習に励んでいます。
　阿見支部です。主に使用する道場は、阿見中学校の弓道場を使用しています。道場は中学校グランドの南側に位置し、グランドと弓道場の境目に桜の木が一列に植えられ、満開の時期には、桜吹雪が舞うなか、弓を引くことができます。そんな桜のつぼみがほころび始めるなか、新入会員２名を加え、26年度阿見町春季大会を３月30日に行いました。結果は次の通りでした。射詰賞　和田　恭子、競射優勝　廣田　寛治、２位　石島　凡子、３位　馬場　之雄。
　筑波北条支部です。筑波北条支部は筑波高校の卒業生を集め、10名ほどで昨年支部を立ち上げました。練習場所は、筑波高校の弓道場を借り、週３回程度、５、６人で練習しており、林田國洋先生のご指導のもと、日夜、修練に励んでおります。
　新治支部です。新治支部では、毎週土曜日12時半から国谷弓道場鳳遊館道場の清掃を行い、１時から練習を開始します。平均すると10名ほど集まります。国谷先生宅にはみかんの木が沢山あり、時期には練習後や休日にみかん狩りを楽しんでいます。練習内容は、最初射詰をおこない、次に立射にて、四矢を８回、32射を行います。成績により、次週の立ち順が決まります。７週連続１位の方が最近でました。せめて、中間の位置に留まることができるよう、中る射をめざし研究をしながら練習に励んでおります。先日行われた土浦市桜祭り大会において、準優勝（個人）に輝いた部員もおります。
　土浦亀城支部です。土浦亀城支部は25年度会員数54名で、毎週、月・木曜日の練習会には30～40名近くの会員が参加して、活発に活動しております。射術・射技・体配等、毎回テーマをもうけ、稽古しています。練習の前にはストレッチや筋トレ、巻藁練習で射術の確認、その後、座射での審査の間合いの行射を行います。途中休憩（お茶会）の後、個人練習を行います。毎週第４土曜日は錬成会を行い、心と体と射術の向上をめざします。講習会や合宿も行っております。特に合宿では２日間、弓道づけになります。その他、会員相互の親睦と射技や体配の向上をめざしていろいろ企画し、運営しています。
　土浦支部です。土浦支部では土浦市体育協会の一員として、毎年４月初めに、土浦桜まつり弓道大会を開催していますが、皆様のご協力のおかげで今年50回を迎えることができました。今年は50回記念大会ということで参加者全員に記念品を贈呈しました。今年は桜もちょうど満開で多数の方が亀城公園の桜を満喫されたと思います。大会は学生の部では、中学生が昨年の約５割増しの１４０人の参加がありました。四ツ矢一回の競射でおこなわれた競技では、皆中者が中学生２名、高校男子７名、高校女子３名と白熱した成績の中、それぞれ土浦三中　青野　加奈さん、土浦二高　山川　大貴さん、土浦一高　塚本　悠里さんが優勝しました。一方、一般の部は35支部２３３名の参加をいただき、記

念大会にふさわしく盛大に開催することができました。成績は一手の皆中者が37名の多数となり、八寸的の競射により新利根支部の相原利恵さんが射詰賞となりました。競射は5名の六射皆中者で競われ、牛久支部の坂本充さんが見事優勝されました。また、一般の部の日曜日は雨が心配されましたが、土浦市産業部長の久保谷氏がわざわざ前日に杉並区高円寺の気象神社に赴き、晴天祈願のお守りとお札をいただいてきたとのことで、心配された雨も短時間の小雨程度で収まり、順調に大会が進められたことは、気象神社の御利益があったものと、久保谷氏のご厚意に感動です。今後もこの土浦桜まつり弓道大会がいつまでも続くよう、支部としても鋭意努力していきますので、皆様のご協力と、来年もまた多数参加いただくよう、お願いいたします。

県北地区

常陸太田支部　冨岡　輝夫

県北地区には、大子町、常陸太田市、那珂、太田竹弓会の支部があります。県北地区の風土としては、緑豊かな山々に囲まれ、水郡線沿線に位置しています。四季折々の季節には、桜の花が美しく咲き、五月には新緑が見事です。秋には、大子のリンゴ、太田のぶどう、梨、大宮地区では、アユの漁も盛んです。また冬になると大子の袋田の滝が凍り、見事な景観です。各支部の日頃の練習は、公共の道場や私的な道場を活用して、数人から10人くらいで各自の目標に向かって鍛錬しています。また各支部ごとに大会が開かれ、地元の高校生なども参加し、老若男女の幅広い交流を図っています。

県西地区

筑西市弓道場耐震工事完了

下館支部　鶴見　富雄

筑西市立弓道場の耐震工事及びあづち改修工事が、去る3月下旬に完了し、使用が再開されました。

筑西市立弓道場の設立の経緯については、茨城県弓道連盟50周年記念誌「いばらきの弓道」の下館市支部のページに詳しく書かれていますが、かいつまんで言いますと、昭和45年にそれまでの弓道場が設置されていた借地を返還せざるを得なくなり弓道場が消滅となりました。下館（現筑西）市に弓道場がなくなることを憂いた、先輩弓人の努力により、新たに市立武道館の屋上に設置されました。

それ以降、下館支部（下館真射会）員の弓道修練の場として、弓道普及のための弓道教室の会場として、部内及び近隣高校などを招いての弓道大会の会場として、かなり利用度の高い施設となっていました。

しかし、3年前の東日本大震災の影響で相当の被害を受け、武道館が使用できない状態となりました。

弓道部としては、他の種目の団体と協力し、あるいは単独で市当局に対して、武道館再開に向けて働きかけました。

幸いにも、市側の理解を得て、応急的工事を施してもらい使用を再開していたところでしたが、平成25年度に本格的な耐震工事を実施することになりました。

工事期間である平成25年10月から26年3月までは再び使用できなくなっていましたが、このたび、工事が完了し、使用再開の運びとなりました。また、耐震工事と並行して、あづちも改修され、新しいあづちとなりました。

3月30日には工事完了と使用再開を祝しての射会を開催したところです。

前回の使用不能期間と今回の工事期間には、日立化成、下館一高、明野高校等の弓道場を借用しての練習となりました。快く使用を許可していただきました関係各位には紙面をお借りしてお礼申し上げます。

県南地区

新利根支部　坪井　恒雄

今回は、新利根支部を紹介させていただきます。茨城県南部、利根川の北側で、龍ヶ崎市と潮来市の間に稲敷市があり、昭和61年4月の発足です。

新利根支部の弓道は、昭和52年頃、青年大会（郡内持回り）を当村が担当することになり、その選手の選抜の為、土浦支部・取手支部で練習していた新利根在住会員と弓道経験者の高校ＯＢで、隣町東町の弓道場へ通うようになりました。

稲敷郡の青年大会弓道の部では、昭和55年、57年、58年、60年と4回の優勝が有り、数少ない優勝チームとして貢献しました。当時の村長さんが私達の要請に答えて戴き、昭和61年2月、間口四間・奥行三間・三人立の弓道場が完成しました。

昭和62年の青年大会では、新利根チームが県代表になり、全国大会（明治神宮）に出場しました。その後も弓道教室を開き普及に努めておりますが、平成17年に稲敷市がスタートし、弓道教室は、江

戸崎総合高校弓道場へ移りました。昨年は弓道教室では外国人も含め17名の参加が有り、現在7名が毎週水曜日に午後7時から2時間の練習に励んでおります。

平成17年7月、江戸崎総合高校弓道場で月例会がスタートします。翌年からは、江戸崎総合高校生も参加して、賑やかな月例会に成りました。今年3月で、95回の開催となりました。県大会でも、優秀な成績を残せるようになり、支部としても大変喜んでおります。

これからも、地域に弓道の伝統的文化が広がります様に、会員一同つとめてまいります。

会議報告

県外

全国地連会長会議
（東京都　H25／11／1　柴田）

関東地域弓道連盟連合会会議
（東京都　H26／4／9　柴田）

関東地域弓道連盟連合会会議
（甲府市　H25／10／1　柴田）

県内

専門部長会議
（武道館　H26／1／20）

理事会
（武道館　H26／2／22）

代議員会
（武道館　H26／3／15）

研修事業報告

県外

〔関東北〕
地区指導者講習会
（水戸市　H25／5／11～12）
山村　晋、白石　直之、荻原　裕一、柴田　隆子、林田　幸子、海老根芳江

中央研修会
（東京都　H25／10／4～6）
白石　直之
〔関東北〕
地区指導者育成講習会
（宇都宮市　H25／6／1～2）
米山　良美、平原　勝己、川原　信子
〔関東・東北〕

学校指導者講習会
（秋田市　H25／7／27～28）
後藤　裕一、柴　弥寿子

県内

講師審査委員研修会
（H25／4／13　水戸　58名）

第一回　三四段講習会
（H25／5／12　土浦　61名）

第一回　錬士講習会
（H25／6／8　土浦　46名）

第一回　教士講習会
（H25／6／29　水戸　27名）

高体連審判員講習会
（H25／7／6　水戸　61名）

第一回　五段講習会
（H25／7／7　土浦　48名）

支部指導者講習会
（H25／7／20　水戸　50名）

第二回　五段講習会
（H25／8／11　取手　18名）

第二回　錬士講習会
（H25／8／18　水戸　34名）

教職員指導者講習会
（H25／9／23　水戸　18名）

第二回　三四段講習会
（H25／9／29　土浦　52名）

第二回　教士講習会
（H25／11／30　水戸　24名）

加盟競技団体育成講習会
（H25／12／7　水戸　53名）

述べ参加者数　５５０名

県外大会　一般

第64回全日本弓道大会
（京都市　H25／5／2～3）
・教士の部
演武皆中、射詰進出
張替　謙一

第60回全日本勤労者弓道選手権大会
（長崎県島原市　H25／6／7～9）
・日立製作所（茨城）
（久保田　亮、笹沼　健一、木元　雄太）…決勝1回戦敗退
・三菱化学（鹿島）
（山野　貴広、上田　有香、大瀬良健蔵）…2次予選敗退

第51回関東教職員弓道大会
（神奈川県　H25／6／30）
・男子の部
個人3位　栗田　克紀

第44回全日本教職員弓道選手権大会
（米沢市　H25／8／10～11）
・男子個人の部
4位　後藤　裕一（土浦工業高校）
・女子個人の部
2位　柴　弥寿子（下妻第一高校）
8位　大金喜代子（大成女子高校）

第68回国民体育大会　関東ブロック大会
（横浜市　H25／8／25）
・少年男子
近的　3位、遠的　7位、総合　5位
・少年女子
近的　7位、遠的　4位、総合　6位
・成年男子
近的　1位、遠的　5位、総合　2位…関東ブロック通過
・成年女子　近的　7位、遠的　3位、総合　5位

第54回関東地域弓道選抜選手権大会
（甲府市　H25／10／6）
有段者の部
（唐澤　章、山口　純、小松　滉佑、中根奈津美、後藤　雅明）
有段者の部　大会賞
第2位　中根奈津美（桐友会）
第3位　山口　純（蒼藤会）
称号者の部
（石井　誠、柴原一利子、小松　正幸、小島　幸子、後藤　裕一）

第64回全日本男子弓道選手権大会（天皇杯）
（中央　H25／9／20～24）
・山村　晋、林田　國洋

第46回全日本女子弓道選手権大会（皇后杯）
（中央　H25／9／20～24）
・柴原一利子、立山たみ子

第68回国民体育大会
（小金井市　H25／9／29～10／2）
・成年男子
（久保田　亮、平戸　信行、山口　純）

第26回ねんりんピック2013高知大会
（高知市　H25／10／27～28）
林田　幸子、松村　匡登、船越　忠、久保　喜雄、堀江　榮、浅見　勝晴、齋藤ミユキ、岩間　捷雄
決勝トーナメント2回戦進出
優秀賞

第64回全日本弓道遠的選手権大会
（島根県　H25／10／18～20）
・男子の部　平戸　信行、石田　昌嗣
・女子の部　上田　有香、小島　幸子

平成25年度　明治神宮奉納全国弓道大会
（中央　H25／11／3）
・称号者の部
6位　来栖　茂（錬士五段）
・称号者の部
9位　堀　史（錬士六段）

第41回　全自衛隊弓道大会
（中央　H25／12／1）
・団体競射の部
優勝　百里基地A
・団体射道の部
2位　百里基地A
・三・四段の部
準優勝　岡田　智光
6位　太崎　優
・初・二段の部
4位　大西　伸明
・隊友の部
準優勝　萩野谷綾子
3位　杉山　義光
6位　大貫富士男

県外大会　高体連

第57回関東高等学校弓道大会
（群馬県　H25／6／1～2）
・男子団体の部
予選通過
藤代高等学校
優勝　江戸崎総合高等学校
・男子個人の部
技能優秀
畑　諒祐（江戸崎総合高）
4位　海老原直人（藤代高）

第58回全国高校弓道大会
（福岡県　H25／8／1～4）
・男子団体の部
予選通過
水戸第一高等学校
・男子個人の部
4位　邉　嵩（藤代高）

第68回国民体育大会　関東ブロック大会弓道競技
（神奈川県　H25／8／24～25）
・少年男子
近的　3位、遠的　7位、総合　5位
・少年女子
近的　7位、遠的　4位、総合　6位

第32回関東高等学校　弓道個人選手権選抜大会
（東京都　H25／9／15～16）
・男子の部
6位　草間　広幸（守谷高）
7位　小林　俊介（佐和高）
8位　文隨　智也（江戸崎総合高）

第32回全国高等学校弓道選抜大会
（大阪府　H25／12／22～24）

県外大会　中体連

全日本少年武道（弓道）錬成大会
（日本武道館　H25／7／20）

第24回関東中学生弓道大会
（中央　H25／8／12）
・男子個人の部
3位　後藤　龍（太田中学）
・女子個人の部
5位　河野　百花（東海南中学）

第11回全国中学生弓道大会
（中央　H25／8／16～18）
・男子団体の部
3位　東海南中学
・男子個人の部
3位　金沢　知哉（東海南中学）

連盟後援行事

村松山弓道大会
（東海村　H25／4／7）

土浦桜祭り大会
（土浦　H25／4／6～7）

鹿島神宮弓道大会
（鹿島　H25／4／29）

神栖弓道大会
（神栖　H25／5／12）

あやめ祭弓道大会
（潮来　H25／6／2）

水戸市弓道大会
（水戸　H25／9／29）

あきんど祭弓道大会
（麻生　H25／10／27）

県南弓道大会
（取手　H25／11／10）

女子大会
（水戸　H25／9／28）

ねんりんピック予選会
（水戸　H25／12／2）

県西弓道大会
（下館　H26／1／5）

観梅弓道大会
（水戸　H26／3／8）

茨城県弓道連盟主催（主管）県内大会

勤労者予選会

H23／3／3
▼団体戦
優勝　三菱化学A
準優勝　日製日立B
▼個人戦
優勝　久保田　亮
準優勝　平根　伸彦
第3位　大瀬良健蔵

春季大会

H25／4／14
▼団体
優勝　湊

準優勝　筑波医学
第3位　神栖B

▼男子の部
優勝　熊谷　博明
準優勝　平根　伸彦
第3位　清水　慶一

▼女子の部
優勝　中根奈津美
準優勝　おきた紀子
第3位　柴山　純子

▼称号者
優勝　村上　美保
準優勝　廣原　洋介
第3位　萩沼　信子

▼優秀賞（団体）
筑波医学B（第一射場）、神栖B（第二射場）

▼優秀賞（個人）
山口　純、新川　広毅

選手権有段
H25／4／28

▼三段以下
優勝　小松　滉佑
準優勝　後藤　雅明
第3位　清水　慶一

▼四・五段
優勝　山口　純
準優勝　唐澤　章
第3位　中根奈津美

▼最高得点
初段以下　小松　滉佑
弐段の部　濱田　春樹
弐段の部　西岡ひかり
参段の部　木元　雄太
四段の部　山口　純
五段の部　菊地　俊和
五段の部　唐澤　章

選手権称号
H25／5／26

▼男子の部
優勝　石井　誠
準優勝　後藤　裕一
第3位　小松　正幸

▼女子の部
優勝　柴原一利子
準優勝　小島　幸子
第3位　木村亜紀子

▼最高得点
男子：山村　晋
女子：立山たみ子

県民総体
H25／6／23

▼男三段以下
優勝　宮本　浩匡
準優勝　大西　伸明
第3位　小松　滉佑

▼男四段以上
優勝　山口　純
準優勝　唐澤　章
第3位　宮本　和明

▼女三段以下
優勝　井谷　光恵
準優勝　水野　希美
第3位　梅原　優

▼女四段以上
優勝　川畑　映子
準優勝　河原加奈枝
第3位　柴山　純子

▼称号受有者
優勝　高木　勉
準優勝　福地　平
第3位　門井　了

遠的大会
H25／7／21

▼男四段以下
優勝　山口　純
準優勝　稲見　真人
第3位　太崎　優

▼男五段以上
優勝　石田　昌嗣
準優勝　来栖　茂
第3位　平戸　信行

▼女四段以下
優勝　小林　美環
準優勝　中根奈津美
第3位　里村みほ子

▼女五段以上
優勝　小島　幸子
準優勝　上田　有香
第3位　石井　和子

夏季練成
H25／8／25

▼5人立団体戦
優勝　筑波医学
準優勝　水戸B
第3位　和弓会
第3位　水戸桜川B

中野杯
H25／9／8

▼男子の部
優勝　岩間　捷雄
準優勝　平根　伸彦
第3位　照沼　勇一

▼女子の部
優勝　草下理恵子
準優勝　西野　文子
第3位　相原　利恵

▼称号受有者
優勝　石井　和子
準優勝　大崎　真一
第3位　後藤　裕一

段位別
H25／9／15

▼二段以下
優勝　石塚　政弘
準優勝　下山　幸
第3位　井坂　直貴

▼三段の部
優勝　木村孝太郎
準優勝　高本　祐一
第3位　豊崎　光輝

▼四段の部
優勝　山口　純
準優勝　久保田　亮
第3位　丸山　貴大

▼五段の部
優勝　西野　文子
準優勝　幕内　雄基
第3位　唐澤　章

▼称号受有者
優勝　米山　良美
準優勝　柴田　猛
第3位　郡司　武満

▼優秀賞
弐段以下　井坂　直貴
参段の部　豊崎　光輝
四段の部　山口　純
五段の部　菊地　正光

武道フェスティバル
H25／11／9

▼男子の部
優勝　渡邉　修也

準優勝　金沢　知哉
第3位　岡部　真斗

▼女子の部

優　勝　興野あずさ
準優勝　中村　由菜
第3位　米森　千紘

支部対抗

H25／11／24

▼3人立団体戦

優　勝　蒼藤会
準優勝　潮来
第3位　土浦亀城B
第3位　下館B

ネンリン予選

H25／12／2

▼選手候補

福島　勝之、大貫眞智子、
川端　達夫、越川　春江、
小野田文雄

▼監督／交代選手

根本　僖哉、齋藤　千春、
濱野　治夫

新年射会

H26／1／19

▼三段以下男子

射詰優勝　矢崎　一男
優　勝　矢崎　一男
準優勝　木村孝太郎
第3位　井坂　直貴

▼三段以下女子

優　勝　国井　彩香
準優勝　柴田　幸子
第3位　荒川かつ子

▼四・五段男子

射詰優勝　山口　純
優　勝　久保田　亮
準優勝　笹沼　健一
第3位　齊藤　千晴

▼四・五段女子

優　勝　沖田　紀子
準優勝　里村みほ子
第3位　川畑　映子

▼称号受有者男子

射詰優勝　米山　良美
優　勝　大友　実
準優勝　小堀　富男
第3位　明間　勲

▼称号受有者女子

優　勝　小島　幸子
準優勝　柴原一利子
第3位　小武内弘子

茨城県教職員弓道連盟県内大会結果

春季大会

H25／5／18

▼男子の部

優　勝　飯塚　尚人
準優勝　白石　直之
第3位　後藤　裕一

▼女子の部

優　勝　大川都志子
準優勝　大金喜代子

▼総合の部

優　勝　飯塚　尚人

秋季大会

H25／11／16

▼男子の部

優　勝　染谷　学
準優勝　後藤　裕一
第3位　唐澤　章

▼女子の部

優　勝　佐藤　敬子
準優勝　大金喜代子
第3位　大川都志子

▼総合の部

優　勝　染谷　学

高体連県内大会結果

春季大会 兼 関東大会県予選

H25／5／9（女子）
H25／5／10（男子）

▼男子団体

優　勝　土日大A
準優勝　牛栄進B
第3位　江戸総B

▼女子団体

優　勝　笠間
準優勝　清真学C
第3位　清真学B

▼男子個人

優　勝　南雲　湧斗
準優勝　藤田　拓巳
第3位　海老原直人

▼女子個人

優　勝　日置　風花
準優勝　都平　祐加
第3位　久保木智絵

高校総体予選　県民総体予選
全国総体予選　国体茨城大会

H25／6／7・8・9

▼男子団体

優　勝　水戸一
準優勝　清真学
第3位　境

▼女子団体

優　勝　竹園
準優勝　清真学
第3位　筑波

▼男子個人

優　勝　田邉　嵩
準優勝　小林　和也
第3位　新宮　大希

▼女子個人

優　勝　宇野　如月
準優勝　三宅由季子
第3位　宮谷台香純

国体選手選考会

H25／6／15（1次）
H25／6／21（2次）

▼男子の部

候補選手　海老原直人
南雲　湧斗
和田　啓佑
佐久間和彰
監督
土居　義邦

▼女子の部

候補選手　宮谷台香純
久保木智絵
楠本　瑠夏
橋本明香里
監督

県個人選手権兼
関東個人選手権県予選会

H25／8／20（女子）
H25／8／21（男子）

▼男子総合

優　勝　南雲　湧斗
準優勝　菅谷　守恭
第3位　卜部　恵輔

▼女子総合

優　勝　酒井重実子
準優勝　渡邊　涼子

第３位　関根　栞

▼男子１年
優　勝　佐藤　慧
準優勝　富樫　直人
第３位　大森　光

▼女子１年
優　勝　葉梨　真彩
準優勝　伊能　舞
第３位　石川　楓

中野優勝旗大会

H25／10／5

▼男子団体
優　勝　江戸総
準優勝　水戸一
第３位　土浦二

▼女子団体
優　勝　清真学
準優勝　筑波
第３位　藤代

▼男子個人
優　勝　海老原直人
準優勝　和田　啓佑
第３位　菅谷　守恭

▼女子個人
優　勝　久保木智絵
準優勝　飯塚　美奈
第３位　酒井重実子

新人大会 兼 全国選抜予選

H25／11／11（男子）
H25／11／12（女子）

▼男子団体
優　勝　佐和Ｂ
準優勝　下妻一Ａ
第３位　水戸工Ｂ
第３位　清真学

▼女子団体
優　勝　下妻一
準優勝　清真学
第３位　守谷Ａ
第３位　取手一

▼男子個人
優　勝　菅谷　守恭
準優勝　髙野真太朗
第３位　鈴木　敦

▼女子個人
優　勝　村岡可奈子
準優勝　間中　恵美
第３位　井上　真奈

県高校弓道冬季大会

H26／1／25

▼男子団体
優　勝　江戸総
準優勝　水戸工
第３位　下妻一

▼女子団体
優　勝　竹園
準優勝　緑岡
第３位　鹿島

▼男子個人
優　勝　髙野真太朗
準優勝　福岡　遼馬
第３位　堂園　佳希

▼女子個人
優　勝　稲田　夕華
準優勝　平根　百華
第３位　樽見　紗彩

中体連県内大会結果

県総合体育大会

H25／7／24

▼男子団体
優　勝　東海南中
準優勝　城西中
第３位　城ノ内中

▼女子団体
優　勝　阿見中
準優勝　東海南中
第３位　東海中

▼男子個人
優　勝　金沢（東海南）
準優勝　舛井（東海南）
第３位　荒井（城西）

▼女子個人
優　勝　村松（下館西）
準優勝　河野（東海南）
第３位　小林（土浦三）

中野優勝旗大会

H25／8／2

▼男子団体
優　勝　東海南Ａ
準優勝　清真学園Ａ
第３位　東海南Ｅ
第３位　城ノ内Ｂ

▼女子団体
優　勝　阿見Ａ
準優勝　阿見Ｃ
第３位　土浦三Ａ
第３位　土浦三Ｄ

▼男子個人
優　勝　川村（東海南）
準優勝　苅谷（城ノ内）
第３位　露木（千波）

▼女子個人
優　勝　澤幡（清真学園）
準優勝　川元（土浦三）
第３位　宮本（城ノ内）

県新人大会

H25／11／5

▼男子団体
優　勝　東海南中
準優勝　愛宕中
第３位　東海中

▼女子団体
優　勝　東海南中
準優勝　土浦三中
第３位　東海中

▼男子個人
優　勝　佐藤（東海）
準優勝　小林（愛宕）
第３位　国井（東海南）

▼女子個人
優　勝　小森（東海）
準優勝　宮谷台（清真学園）
第３位　中村（土浦三）

編集後記

「弓道いばらき」第36号をお届けいたします。久保田清新会長の方針のもと、茨城県弓道連盟が一層発展するよう、情報発信の充実をはかっていきたいと考えています。皆さまからの情報をお待ちしております。

茨城県弓道連盟ホームページ
http://ibakyuren.com/
茨城県弓道連盟　広報部

平成25年度　中央(臨時)審査会　合格者

No	取得	氏　名	所　属	取得日	審　査　場　所	
1	錬士	信 戸 修 一	阿　見	H25. 8.12	【山形】特別教員臨時中央審査	米　沢
2		菊 地 俊 和	藤　代	H25. 9.14	【関東】臨時中央審査	宇都宮
3		塚 本 重 毅	土浦亀城			
4		木ノ内 秩 子	日 立 市	H25.10.26	【東北】臨時中央審査	山　形
5		櫛 田 浩 平	原子力機構	H25.11. 4	【関東】錬士臨時中央審査	埼　玉
6	六段	會 澤 　久	みと葵	H25. 7. 5	平成25年度推薦	－
7		梶 　直 子	神　栖	H25. 7.13	【仙台】定期中央審査	仙　台
8		小 出 則 行	水戸桜川			
9		辻 　尚 宏	土浦亀城	H25. 8.12	【山形】特別教員臨時中央審査	米　沢
10		門 井 　了	友　部	H25. 9.15	【関東】臨時中央審査	宇都宮
11		小 泉 公 子	東　海			
12		生 井 栄 作	下　館			

平成25年度　連合審査会　合格者

No	取得	氏　名	所　属	取得日	審　査　場　所	
1	五段	砂 押 栄 二	東　海	H25. 7.28	【千葉】関東地域連合審査	千　葉
2		千 葉 一 茂	土浦亀城	H25. 8.12	【山形】特別教員臨時中央審査	米　沢
3		大 貫 眞智子	勝　田	H25. 9. 8	【栃木】関東地域連合審査	宇都宮
4		川 原 信 子	取　手			
5		宇留野 純 平	東　海			
6		大 谷 靜 枝	みと葵	H25.10.13	【茨城】関東地域連合審査	水　戸
7		石 島 凡 子	阿　見			
8		橋 本 國 治	東　海			
9		遠 藤 俊 夫	藤　代			
10		岡 田 敏 樹	龍ヶ崎			
11		堀 　義 明	龍ヶ崎			
12		田 谷 俊 陸	水　戸			
13		門 井 寿 通	水戸桜川			
14		山 次 禎治郎	堀　原			
15		松 村 匡 登	神　栖	H25.11.24	【東京】関東地域連合審査	中　央
16		古 山 道 子	藤　代	H26. 2.23	【東京】関東地域連合審査	中　央
17		尾 吹 将 大	茨　城			
18		石 田 祥 子	水　戸			
19		新 川 喜美子	神　栖			
20		槇 島 健 一	筑波医学			
21		和 栗 　淳	友　部			